

第9投目の九島釣行の際にグーグルアースで前もって釣り場を調べていたのですが周辺の島を見ていたところ九島と戸島の高島と云う島が目にとまりました。



小さな無人島のようなのですが島の真ん中に桟橋があります。周辺のかげ上がりはかなりきつそうですが、桟橋からだと釣りになりそうです。三瓶町の高島は有名ですがこの高島は話題にのぼりません。当然ながら愛媛協会のお膝元で宇和島湾の中の島ですから、投げ釣りが全く入っていない事はありませんが少なくとも最近ではその形跡はありません。定期船は有りませんので渡船で探してみるとありました。すると在りました。

宇和島の吉田屋さんと言う渡船が渡してくれるそうで船頭さんに「私たちは投げ釣りでカワハギや緑色の細長いキューセンベラを狙っていますが、この島で釣れますか？」と聞いてみると以外にも「ここなら釣れますよ」と二つ返事。「昔は人が住んでいたが住まなくなってからかなり経ちます」とも。思わず頭の中で「やった！」と叫んでしまいました(笑)ここまで聞くと後は言うまでもありません。人が入っていない=釣り荒れしていない=大型化=キューセンC、いやDにカワハギD、ひょっとしてヨメゴチ!? =一気に大物2つ伸びて290号いや~297号!? 達成=バンザ~イ あり得ないのに妄想は広がります(笑)

最近釣りのベクトルがピッタリ合っているクラブの石黒さんにこれまでの経緯を説明。

彼は普段から冷静でクールですが「行きましょう！」これまた二つ返事。

行きの道中、「ホンマに釣れたら絶対、誰にも言わんとこな」などと元会長とは思えぬ悪巧みまで(笑) ホンマにおめでたい私です。

グレ釣りのシーズンに入ったのでほぼ満員の磯釣り客の中に投げ釣りの私達は2人だけ。夜も明けきらぬ午前4時20分。ベタなぎの宇和島湾を出航しました。殆どの釣り師は日振り島への磯渡しですが途中、高島で私達は降りました。夜明け近く周辺がうっすらと見えてきました。森の中で沢山の鳥が鳴いています。人の気配は全く無く桟橋が無ければその

昔、尾長ノドクサリや大型のキューセンで沸いた紀東、九鬼のアジロに雰囲気似ています。自分の中ではテンション MAX です！（爆）水深は20Mほど、砂地に所々、根があります、と船頭さんに聞いていたので夜が明けきらぬ内はマダイかチヌでも狙おうという事で本コウジをお互い5個ずつ買ってあります。大物号数には関係有りませんが協会のマダイ、チヌの魚拓大会に大物を釣れば上位を狙えるかも知れません。とにかく初めての釣り場なので何が来るか判りません。竿をセットするのももどかしいほど期待をもって竿は2本、本コウジを付けて投げました。石黒さんは本コウジに生きアジも投げています。今か今かと待ちますが シン(涙)

ならばとマムシを付けて投げます。こちらは糸ふけを取るも間もなくガンガンと竿先をたたきます。ひょっとしてキューセン？

合わせますがかなりの重量感。キューセンでは無さそう。案の定、上がってきたのは大きなイソベラです。その後もチャリコ、イソベラ、トラハゼと禄でもない魚ばかり。アタリは頻繁に出ますが本命は全く気配すらありません。

ジジーーーーッ本コウジを付けた竿にアタリが出ました！でもスピードがありません。

重量感はそこそこで締め込みも有ります。手前のロープへ魚が入っていくのでやや強引に浮かせました。大型のエソで50センチは軽く越えています。「な～んやエソか」と

思った瞬間「馬鹿にするな！」とばかりに本コウジを吐き出して暗い海中へ帰って行きました。2時間ほどは禄でもない魚ばかりでそれでも頻繁にアタリがあったのに

7時を過ぎてパタッとアタリが止まりました。石黒さんと棧橋の周辺はくまなく探りましたが手前はイソベラ、遠投はトラハゼか小型のカワハギだけです。かくなる上はポイント移動です。右側の岩場は潮が引けば歩いて行けそうで11時になると何とか竿を出せる迄、潮が引きました。水深は30M以上で手前はきつかけ上がりです。



迎えは午後3時で干潮は午後2時過ぎ。余裕をもって竿は振れそうです。

安定の悪い足場もなんのその。ガンガン打ち返しますが、先ほどの棧橋よりアタリが少なく、たまに釣れるとイソベラとトラハゼで、そのでかい事。

確かに長い間、人が入っていない証拠ですが、証拠がこれではネエ・・・

干潮前にかすかなアタリを合わせました。引きの具合からしてカワハギでしょう。

手前のかけ上がりを気にしながら一気巻き。



何とかありそう (26cm)

続いて寸タラ



時合いモード突入!?

その直後、はっきりしたアタリが! すかさずあわせませ

水深も有りますがかなりの抵抗です。グググッと魚の引きも。

待望のキューセンか。強烈でも無くそれなりに締め込みも有ります。

遂にやったか! 竿を高く上げて必死に一気に巻きです。駆け上がりを過ぎた辺りで

魚が見えましたが緑色ではなく赤い! ? タイ? ところが上がってきたのはこいつ。



ホンマにイらん奴ですわ～。ガッカリ。

と NAGE-STYLE 第8投目と、まるっきり同じパターンには笑えます。

「新規開拓では仕方ない事ですよ」と石黒さんは慰めてくれましたが・・・  
期待が大きかっただけに疲れも大きいです。

ただ、この度、300号を達成した八尾さんの来る日も来る日も13年間ヒラメのDランク坊主からすれば私達の外れ釣行など苦勞の内には入りません。  
まだまだ、甘い！

修行の度はこれからも続きます。